

# 十和田市立 新渡戸記念館だより



太素塚の南部むらさき

ムラサキ【学名：Lithospermum erythrorizon】

ムラサキ科の多年草。高さは約50cm。日当りのよい草地に稀に自生。夏、白色の小花を開く。根は紫色、乾燥したものを生薬の紫根（しこん）といい、解毒剤・皮膚病薬とするほか、昔は重要な紫色の染料とした。近年、生育地が減り、絶滅危惧植物にあげられている。



紫草図（『南部むらさきの由来』より）

## 江戸時代には品質日本一といわれた「南部むらさき」が今絶滅の危機にあります

新渡戸十次郎が万延元年（1860）に記した三本木原開拓概要書『三本木平開業之記』には、南部地方でとれるムラサキについて「自然に野原に生えて日本一の品質であり、自然に実生から繁茂するようにさせれば一大産業となる」とあり産業としての開発を勧めています。当時南部盛岡藩の専売特産品の一つだった「南部むらさき」ですが、明治以降外国染料の登場により染料としての需要が激減し、山野の開発とともに野生のムラサキはほとんど見られなくなりました。現在は絶滅危惧植物の一つにあげられており、十和田市では十和田むらさき保存研究会（大川京子会長）で市内に自生していたムラサキから種をとり栽培を行い、保存とともに「十和田むらさき」として地域の特産品化に取り組んでいます。記念館では研究会より平成10年に分けていただいたムラサキの苗から種をとり、11年に太素塚境内に地蒔きし、試験的に十次郎が提唱したような野生に近い形での栽培を試みています。12年からは花もつき徐々に太素塚に根付いているようですが、栽培は難しく野生の「南部むらさき」が再び見られるようになるのはまだまだ遠い日のようです。

## 新渡戸稲造旧蔵書に 南部むらさきの本2冊を発見！



▲中村治兵衛氏（1916）に南部紫根染研究所を設立、南部むらさきの染色技術復活に尽力しました。現在十和田市称徳館が所蔵する馬関係コレクションは省三氏の長男・七三氏提供のもので、不思議な縁を感じます。

書庫整理の折、蔵書中に南部むらさきの資料を集めた『南部むらさきの由来』『紫草園』（昭和2年・1927年／中村省三編纂）を見つけました。中村省三氏は盛岡の呉服店「糸治」を営んでいた中村治兵衛氏の四男で、大正5年



▲表紙は菱川師宣「源氏絵帖」若紫の場面。製本には南部むらさきで染めた薄絹や茜で染めた絹糸が使用され、大変豪華な装丁となっている。

書籍を納める袋紙にも紫根絞で模様を染めている。

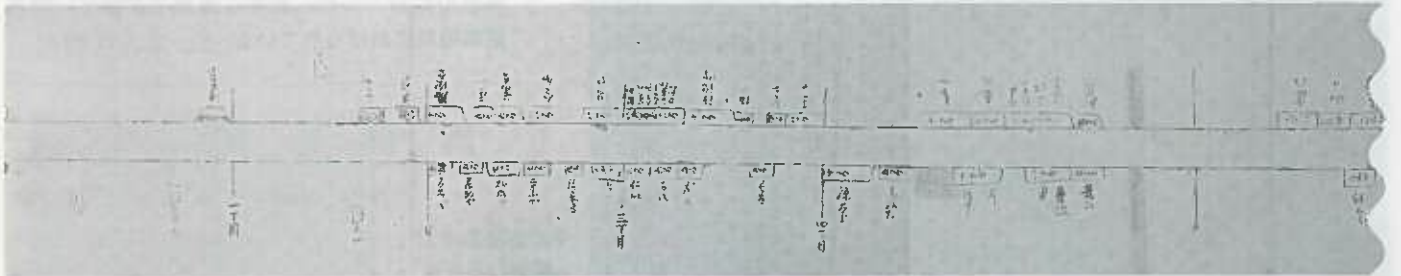


# 特 集 明治初期の稲生町

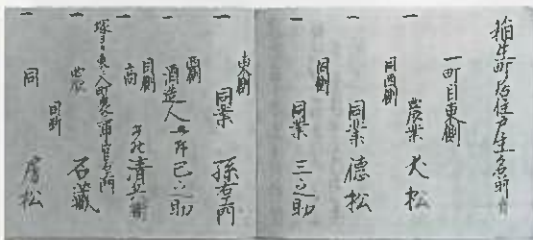
いな おい ちよう

十和田市稲生町は三本木原開拓の都市計画により、約140年前に建設されました。昔を伝える建築物などはほとんど残っていませんが、当館所蔵の明治初期の稲生町町割図などから当時を知ることができます。

稲生町町割図（明治初期）



現在の稲生町4丁目付近



新渡戸七郎『農事録第三編 開墾要録』（明治5年）稲生町居住戸主名が居住地・職業とともに記されています。

新渡戸十次郎の長男・七郎は14～16歳まで父の片腕として三本木原開拓に従事、父亡き後明治元年～6年(1868～73)まで祖父傳と共に開拓地を管理しました。七郎の記録によると明治5年当時稲生町には112世帯が住んでいました。



新渡戸七郎

## 新渡戸傳翁 没後130年

### 命日祭開催 —9月27日—

新渡戸傳翁の命日9月27日に太素塚境内において没後130年命日祭が開催されました。太素顕彰会会長・中野渡春雄市長をはじめとする参列者が墓前に参拝し、三本木原開拓を行い十和田市発展の基礎を築いた傳翁に感謝の祈りを捧げました。新渡戸館長は挨拶の中で「市当局、市議会、太素顕彰会をはじめとする関係の皆様のご協力を得て、さらに“行動する記念館”を目指して文化情報提供の源となるよう努力して行きたい」と話し、今後の決意を示しました。



新渡戸傳墓前に参拝する参列者のみなさん

#### 太素顕彰会の新役員紹介

- 理事 織川 貴司〔十和田市議会議長〕
- 評議員 小佐野隆正〔十和田観光電鉄㈱取締役社長〕
- 評議員 田中 庸治〔十和田市商店街連合会会長〕
- 評議員 竹ヶ原幸光〔十和田土地改良区理事長〕

## 講談社 週刊『再現日本史』で三本木原開拓を紹介

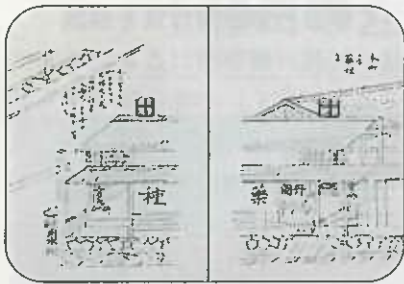
講談社で発行している週刊歴史雑誌『再現日本史』幕末維新②1855～1857(7月17日号)に新渡戸傳の三本木原開拓着手が紹介されました。この雑誌ではCG画像や模型、ジオラマなどを使うことにより歴史をリアルに再現しています。また、「日本が動いた日・再現ドキュメント」を始めとする特集記事の他、その時代に起こった主な出来事を写真と日録で紹介する「ニュースファイル」により、それぞれの時代の流れを把握できるようになっています。今回三本木原開拓は1855～1857年のニュースファイルの中で紹介されました。



新渡戸傳と稲生川の写真を解説とともに掲載

週刊『再現日本史』表紙

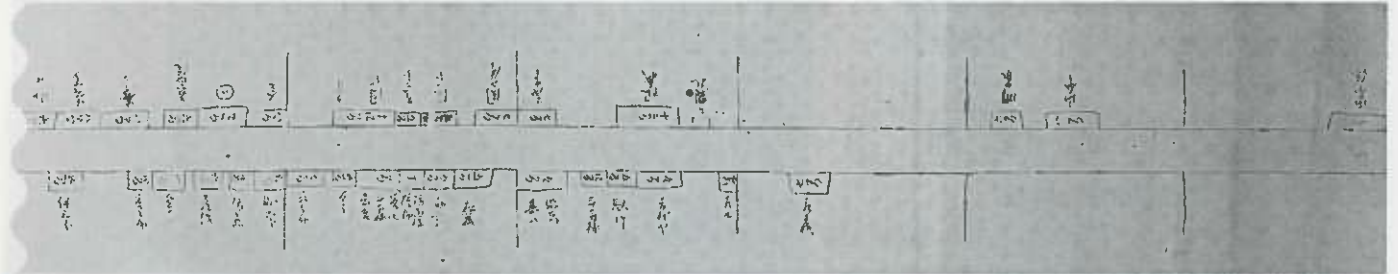




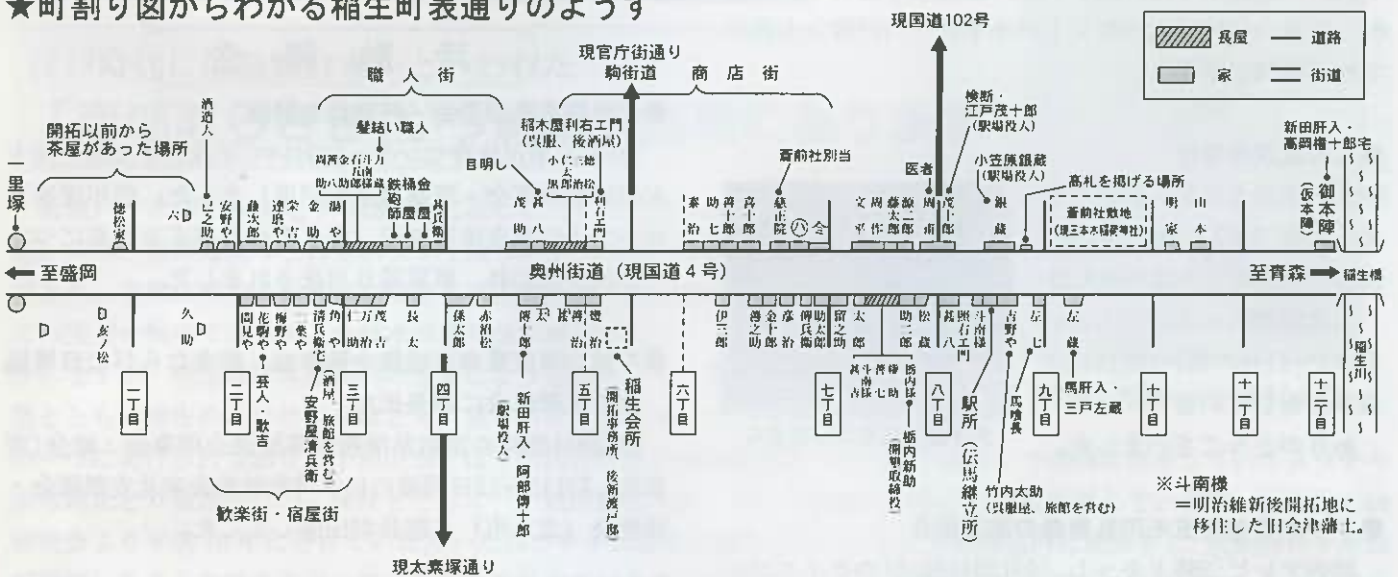
◀こみせ「奥民図彙」(国立古文書館内閣文庫所蔵)より。  
 稲生町の商家や宿屋で表通りに面したものは、榎葺(まさぶき)二階建てこみせ付きの建物としていました。



◀「日本鉄道陸奥地方画譜」(青森県立郷土館所蔵)より。  
 明治中頃の稲生川周辺を描いたこの絵には、稲生橋と仮本陣(新田肝入・高岡権十郎宅)が描かれています。



★町割り図からわかる稲生町表通りのようす



NHKのど自慢 宮川アナウンサー来館  
 —9月29日—

9月30日十和田市民文化センターからNHKのど自慢生放送のため来市した名物アナウンサー・宮川泰夫さんが来館しました。宮川さんの来館は前回のど自慢が当市で開催された平成8年について2度目。新渡戸館長が案内し、



◀館内を見学する宮川さん(左)。

三本木原開拓の歴史や新しく所蔵した新渡戸稲造の書などを興味深く見学されていました。

また番組中、開拓の歴史とともに当館が紹介されました。

あれから17年  
 5000円札発券記念  
 「稲造ラベル」の地酒を保存

昭和59年(1984)11月1日現五千円札の発券を記念して、様々な「新渡戸稲造グッズ」が限定発売されました。この地酒もその一つでラベルには稲造の肖像画と「われ太平洋のかけ橋とならん」の言葉がしるされています。



昭和59年12月製造・鳩正宗(限定発売)。記念館倉庫に保存していました。

### ありがとうございました

千葉孝吾さん(八戸市市川町)より『満州開拓史』(満州開拓史復刊委員会/昭和55年)を寄贈いただきました。

千葉さんは昭和18年10月頃満州開拓団・第六次岩手杉澤中隊が所外活動として三本木国営開墾穴堰工事に従事したことについて調査に来られ、満州開拓団の苦難の歴史が忘れ去られないようにと、書籍を寄贈されました。

### 関連情報

#### ●7月1日～9月30日の来館小学校

<十和田市>三本木小学校/ちとせ小学校<八戸市>町畑小学校/豊崎小学校/鮫小学校/城北小学校/是川小学校/中居林小学校/湊小学校/根城小学校<十和田湖町>法奥小学校<七戸町>七戸小学校<六戸町>大曲小学校/開知小学校

#### ●太素塚清掃奉仕

9/20大学通老成会 9/21三本木小学校 3年2・4組 4年2組  
9/27十和田商工会議所婦人部  
太素塚町内の本瀬戸山老成会は4～11月の第1日曜日に清掃奉仕をしています。



大学通老成会のみなさん

ありがとうございました。

#### ●クイズ番組で五千円札肖像の写真紹介

関西テレビ「2時ドッキリ」(9月20日放送)のクイズコーナー「クイズ! 知ったかぶりで10万円」と、BS デジタル放送のクイズ番組「Time Over」(8月11日放送)で五千円札について出題があり、新渡戸稲造肖像の元となった写真を当館より提供しました。

#### ●十和田市農協広報誌「Ag-resh」で三本木原開拓紹介

十和田市農協が毎月発行している広報誌「Ag-resh」(アグレッシュ)では2月号より「三本木原開拓と新渡戸三代ものがたり」コーナーで三本木原開拓の歴史を紹介しています。

### <編集後記>

「のど自慢」放映後の発行としました。さて、太素塚の森の杉の木は、密植のためか弱っているものも目に付きます。思い切った間伐が必要な時期と思いますが、ちょっと気持ちがゆれています。この先百年の樹齢を保つための決断の日がせまっています。

#### ●岩手古文書学会において新渡戸傳書簡11点を解読

この度、新渡戸家所蔵の新渡戸傳書簡11点を岩手古文書学会(盛岡市/会長・森ノブさん)の菊池玲子さんに解読いただきました。この書簡は傳が四男・太田時敏(太田家養子)にあてて、明治2～4年に書いたものです。今回の解読は新渡戸傳研究の一環として行われましたが、孫・新渡戸稲造の教育についての記述など、稲造研究においても大変興味深い資料といえます。この解読は同会機関誌『岩手の古文書』に掲載されます。

#### ●太素塚で秋祭りのお神輿出陣式

十和田市秋祭りに出陣する中央商店街のお神輿が9月7日、太素塚において出陣式を行いました。



### 活動報告

#### ●太素顕彰会理事会・評議員会開催

7月31日市民体育センターにおいて平成13年度第一回太素顕彰会理事会・評議員会を開催しました。前年度事業報告および収支決算報告、今年度会計補正予算案について審議が行われ、原案通り可決されました。

#### ●平成13年度県博等協議会理事会・総会ならびに日博協東北支部総会に館長出席

6月28日開催の青森県博物館等協議会理事会・総会(青森市)、7月12～13日開催の日本博物館協会東北支部総会・研修会(北上市)に館長が出席しました。

#### ●第一回新渡戸稲造旧蔵書目録 CD-ROM 化作業

8月1～4日北海道大学文学部新渡戸稲造研究プロジェクトより長尾輝彦教授、宇都宮輝夫教授はじめ12名が来館し、当館との共同事業である新渡戸稲造旧蔵書の目録 CD-ROM 化にともなう作業をおこないました。



調査の記念に

#### ●9月27日に新渡戸傳翁没後130年命日祭を開催<詳細2面>

発行 太素顕彰会  
十和田市立新渡戸記念館  
☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
TEL (FAX) 0176-23-4430  
E-mail:nitobem@hi-net.ne.jp  
http://www.towada.or.jp/nitobe/  
印刷 有限会社 岩間印刷所